

福島第一原子力発電所 土壌中のガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。

(単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所		【定点】*1 グラウンド (西北西約500m)*2	【定点】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日		4月16日	4月16日	4月16日
分析機関		株式会社 化研*3	株式会社 化研*3	株式会社 化研*3
測定日		7月3日	7月3日	7月3日
核種	I-131(約8日)	ND	ND	ND
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	2.0E+04	7.1E+03	1.9E+05
	Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
	Cs-137(約30年)	3.6E+04	1.3E+04	3.4E+05
	Sb-125(約3年)	ND	ND	ND
	Te-129m(約34日)	ND	ND	ND
	Te-132(約78時間)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約40時間)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND

*1 過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。

*2 1,2号機スタックからの距離

*3 株式会社 化研における分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない。

2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りである。これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されており、今回の事故による影響と考えられる。

< H21年度福島県による土壌分析結果 >

Cs-137: ND ~ 21Bq/kg・乾土, その他: ND

訂正版

福島第一原子力発電所 土壤中の Sr 分析結果

1. 測定結果：

(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約 500m) ¹	4/16	N.D.	$(1.7 \pm 0.09) \times 10^1$
野鳥の森(西約 500m) ¹		N.D.	$(9.6 \pm 0.17) \times 10^1$
産廃処分場近傍(南南西約 500m) ¹		N.D.	$(1.7 \pm 0.04) \times 10^2$
過去の測定値の範囲(平成 11 年度～平成 20 年度) ²		-	ND～4.3

1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。

2：出典「平成 21 年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)

2. 分析機関：株式会社 化研

3. 評価：

検出された Sr-90 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

8月8日公表のSr-90の測定誤差に誤りがありましたので以下の通り訂正いたします。

誤： $(1.7 \pm 0.14) \times 10^1$ 正： $(1.7 \pm 0.09) \times 10^1$

誤： $(9.6 \pm 0.27) \times 10^1$ 正： $(9.6 \pm 0.17) \times 10^1$

誤： $(1.7 \pm 0.05) \times 10^2$ 正： $(1.7 \pm 0.04) \times 10^2$

以上